

## 「残膵癌に対する外科的治療の長期成績に関する後方視的観察研究」について

### 『研究対象者の方へ』

この文書は、「残膵癌に対する外科的治療の長期成績に関する後方視的観察研究」について説明したものです。本研究は、当院において、2008年1月1日から2021年1月31日の期間に、膵癌（残膵癌含む）に対して膵切除が行われた方を対象としています。すでに実施された診療についてのデータを調べますので、採血などの新たなご負担はありませんし、費用負担が生じることもありません。上記対象に該当する方で、当研究で診療データを使用することを希望されない場合や、疑問点がありましたら、お手数ですが下記連絡先へご連絡をお願いいたします。

### 【はじめに】

膵癌は、最も予後の悪い消化器癌のひとつで、5年生存率は9%程度とされています。膵癌の唯一の根治法は手術であり、最近では術前の化学療法との組み合わせで治療成績は向上しつつあります。また超音波内視鏡や画像性能の発達で早期膵癌の診断能が向上し、早期治療介入により長期予後が得られるようになってきました。長期生存例が増加するなか、残りの膵臓に新たに膵癌が発生する症例も増えてきています。このような残膵癌に対し、積極的膵切除（ほとんどが残膵全摘となる）が有用であるという報告が散見されますが、通常でも合併症率の高い膵切除（30-40%）であり、再手術による合併症率、死亡率はさらに上昇する可能性が考えられます。このように術後の短期成績に加え、残膵全摘は全例が糖尿病を発症することになり長期的な成績が良いかも未だ明らかではありません。この研究の目的は、残膵癌症例を集積し、残膵癌を発症する臨床病理学的な背景や、短期・長期の手術成績を明らかにし、残膵癌に対する治療指針を示すことです。

### 【研究内容】

患者さんの情報（身長、体重、性別、癌の臨床病期、切除法、血液データなど）、手術に関する情報（出血量、手術時間、術後血液データ、術後合併症、在院日数など）、長期成績（再発時期、生存の有無など）を収集し、残膵癌が発生する背景や予後について調べます。

### 【研究予定期間】

研究を行う期間は、本研究の承認日から2023年1月31日までを予定しています。

### 【個人情報の保護】

個人情報の管理が安全に図られるよう、患者さんのお名前は番号に置き換える（匿名化する）など十分に配慮し、利用目的に必要なない実名などの情報を収集したり、個人が特定される可能性がある情報を公表したりしません。

**【医学上の貢献】**

この研究は、比較的まれな病態である残臍癌が発生する背景および外科的治療の有用性に関して明らかにし、残臍癌に対する治療方針を示すことができることから医学上の貢献が十分にあると考えます。

**【この研究に関するお問い合わせ先】**

〒870-0033

大分県大分市千代町 3-2-37 大分赤十字病院 外科

電話番号：097-532-6181

大分赤十字病院病院 第二外科 多田和裕